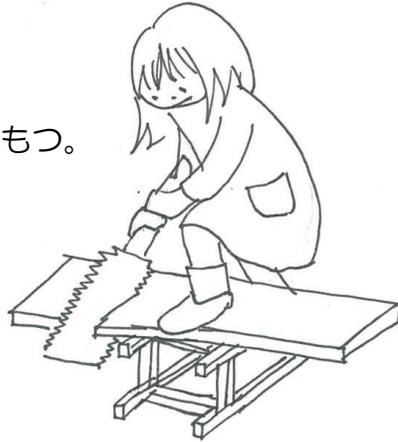


4年

ひみつのすみか

「ひみつのすみか」のイメージをもつ。
木材の使い方を考える。
木材をのこぎりで切る。
木材を組み合わせる。
他の木材・材料を組み合わせる。
特別な場所にする。



木材を組み合わせて、特別な場所をつくりました。120 cm×9 cmの板をどのように使うのか、計画も自分でしました。つくりたいものに合わせて、板の長さ、枚数、厚さも考えてつくりました。安定して組み立てるためには正しく測り、正しく切らなくてはなりません。のこぎりを使うのが初めての人がほとんどでしたが、だんだん使うことに慣れていきました。

組み立てるためにくぎを打ちます。しっかり押さえないと打ちにくく、曲がってしまいます。ちょうどよいくぎの長さも選ばなくてはなりません。うまくいかない場面もありましたが、最後まであきらめずに取り組みました。

今回使った木材の一部は東京都多摩地域で生産されたものです。多摩地域の森林の6割が、人が苗木を植えて育てている人工林で、この人工林を使うことで森林の循環が起こり、豊かな森づくりにつながるそうです。日本の国土の67%が森林といわれています。木工作を通して環境のことを考えるきっかけにしてほしいです。

生き物キング

「キング」といわれる生き物はどんな生き物でしょう。想像して、黒や紺などの濃い色の紙に白で大きく描きました。色はパステルを使って色の変化や濃さを意識して付けました。

点で伝える～わたしのアボリジナルアート～

まず、オーストラリアの先住民族であるアボリジナルの作品を鑑賞し、特徴や描かれているものを考えました。文字の文化をもたないアボリジナルは、色や形や模様を使い、必要なことを伝達しました。作品をよくみると無数の点で描かれていて、これだけ描くのは大変だろうと想像しました。そんな大変な思いをしてまでも伝えなかったことはどんなことでしょうか。きっと、命にかかわること、生きるために必要なことなど、仲間や子孫に伝えなくてはならないことだったでしょう。

他の国の文化を知ることが、相手を理解したり、尊重したりすることに繋がります。他の国の文化を知ることでも自分の国の文化を考えることもできます。今回は、実際に点を描きながらアボリジナルの文化を体験してみました。

